

第171回

# 地震予知連絡会資料

2007年2月19日



京都大学防災研究所

# 第171回地震予知連絡会提出資料

## 目 次

### I. 近畿北部の地殻活動

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| 1. 丹波山地における微小地震活動の静穏化 | ・・・・・・・・ 1 |
| 2. 地殻変動連続観測のトレンド変化    | ・・・・・・・・ 3 |

# 近畿北部の地殻活動 ～丹波山地における微小地震活動の静穏化～

京都大学防災研究所地震予知研究センター

大阪府北部から京都府中部，琵琶湖西岸にかけての丹波山地は微小地震活動が定常的に活発な地域である。丹波山地における微小地震活動は，2003年1月末ごろを境に低下し，その静穏化は現在も継続中で依然として一定の低い活動度を保っている。昨年6月以降はさらに活動が低かったが，11月3日に丹波山地の活動域中央部でM3.7の地震が発生した後，昨年並みのレートに復帰しているようである。

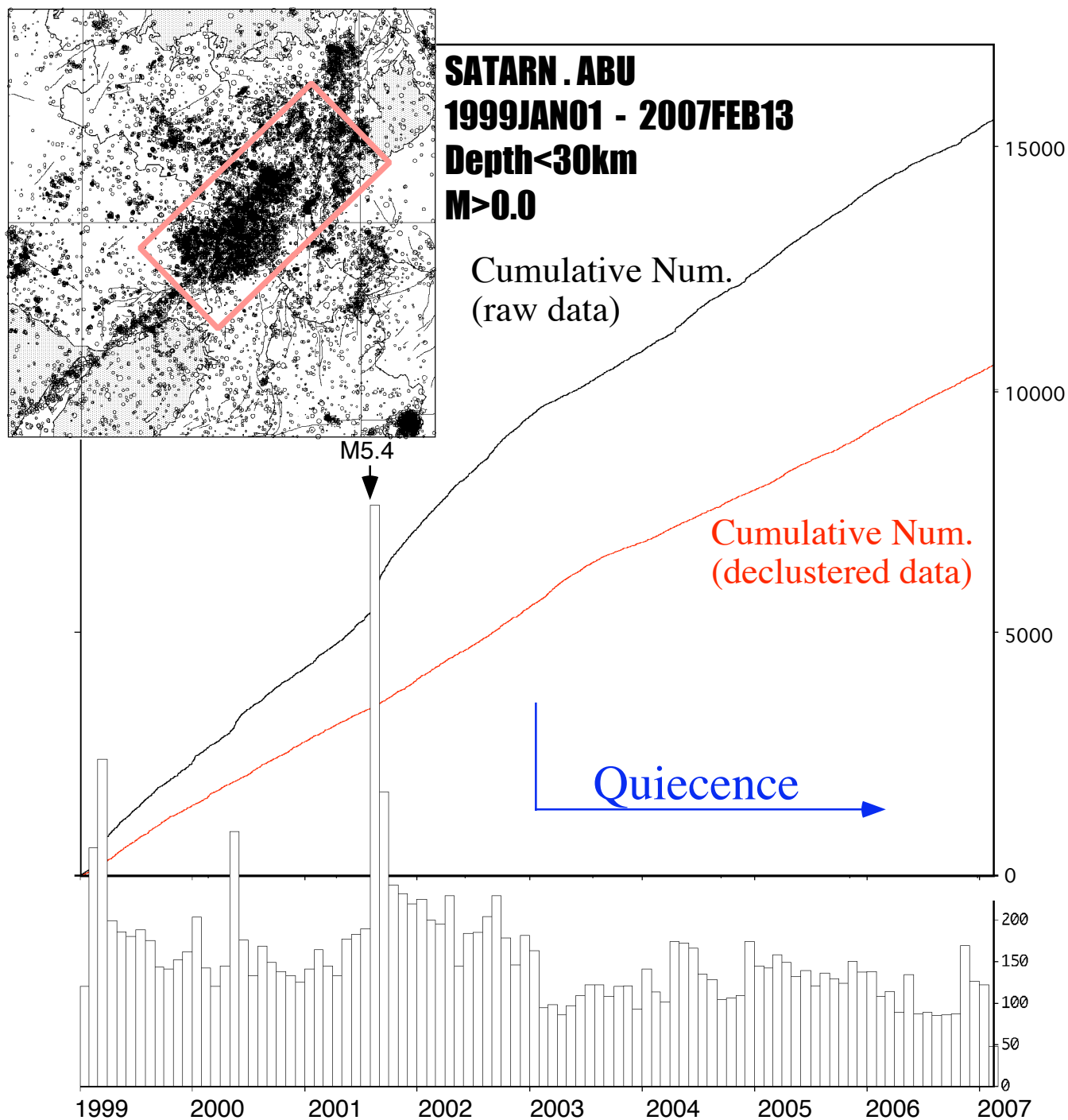


図1 (上) 近畿地方北部の微小地震活動。1999年1月1日～2006年11月14日。30km以浅。京都大学防災研究所地震予知研究センターによる。(中) 上図の矩形範囲内の積算地震発生数、赤い線はdeclusterしたカタログによる積算数。(下) 上図の矩形範囲内の月別発生数。

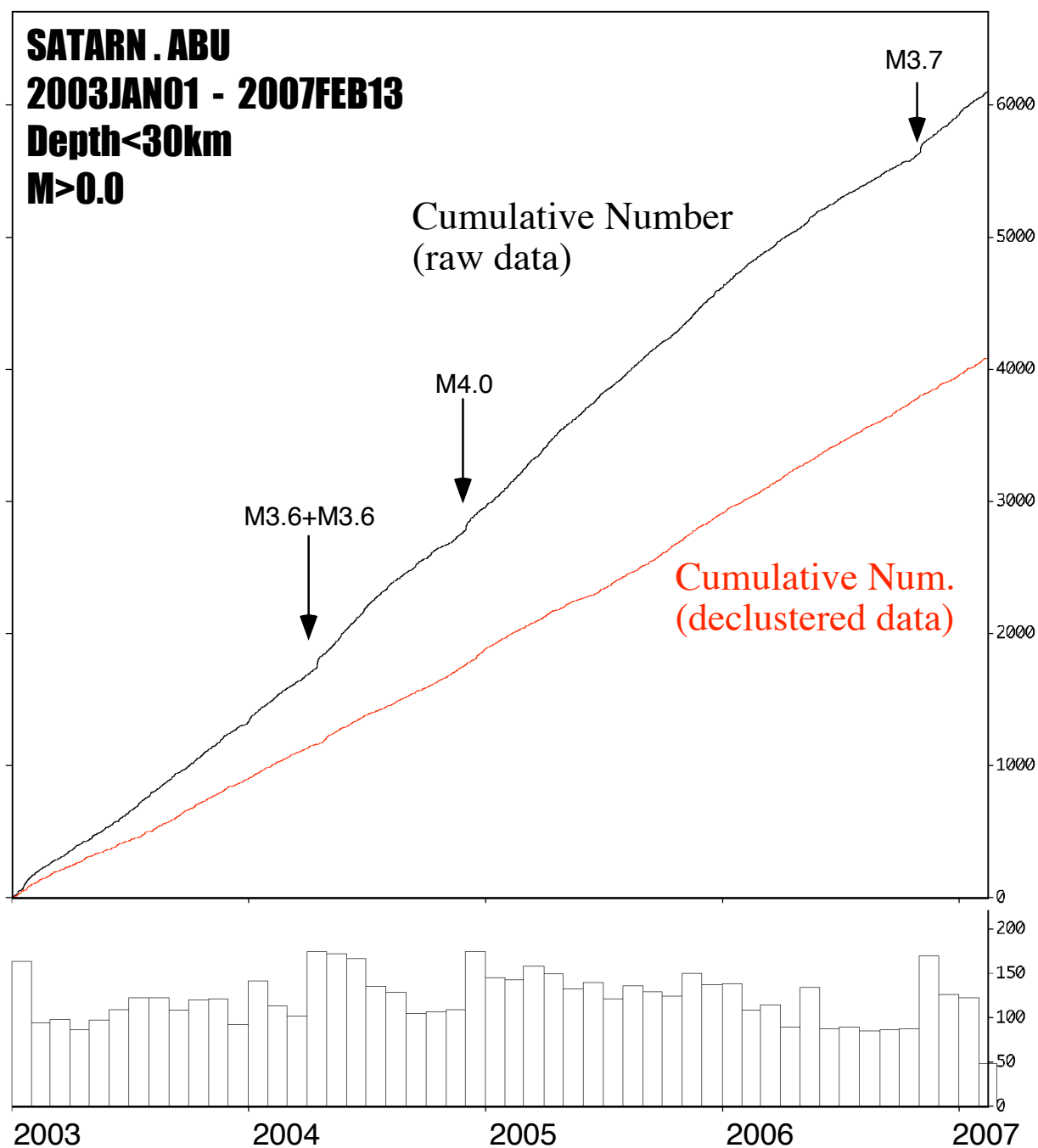
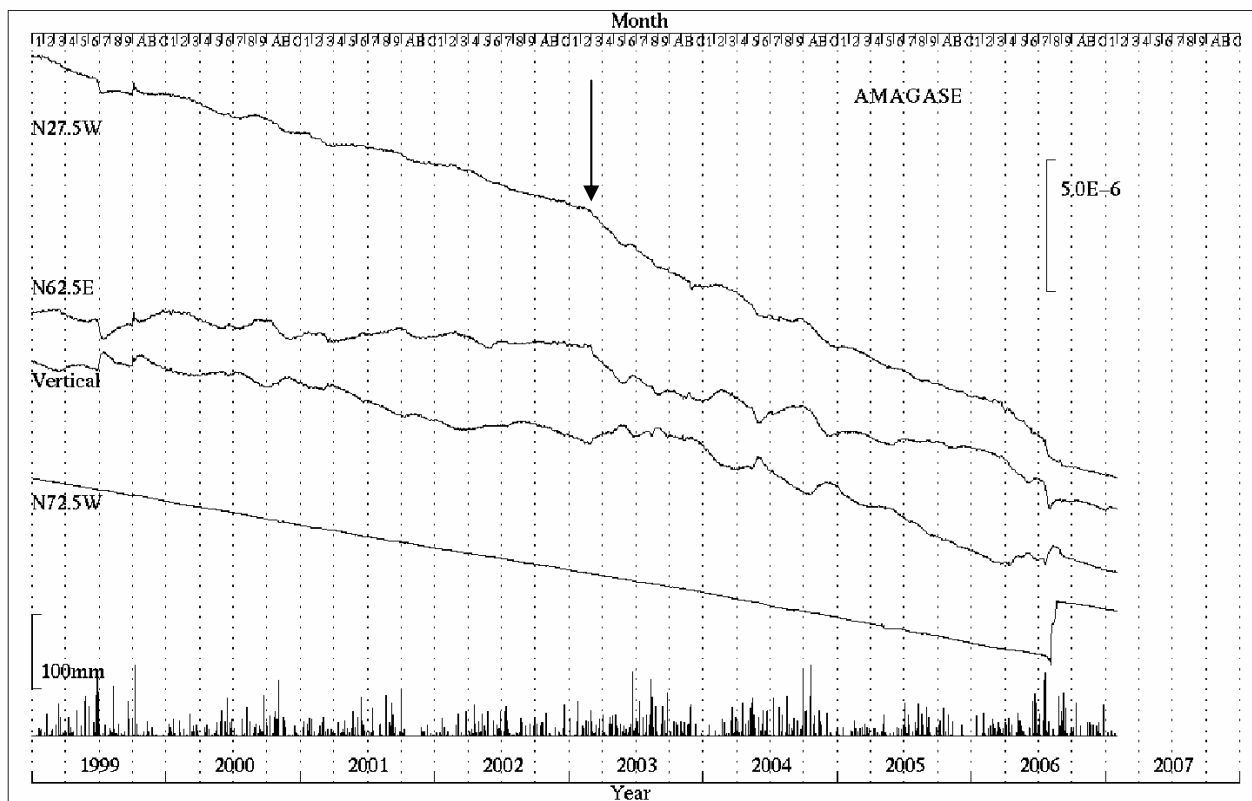


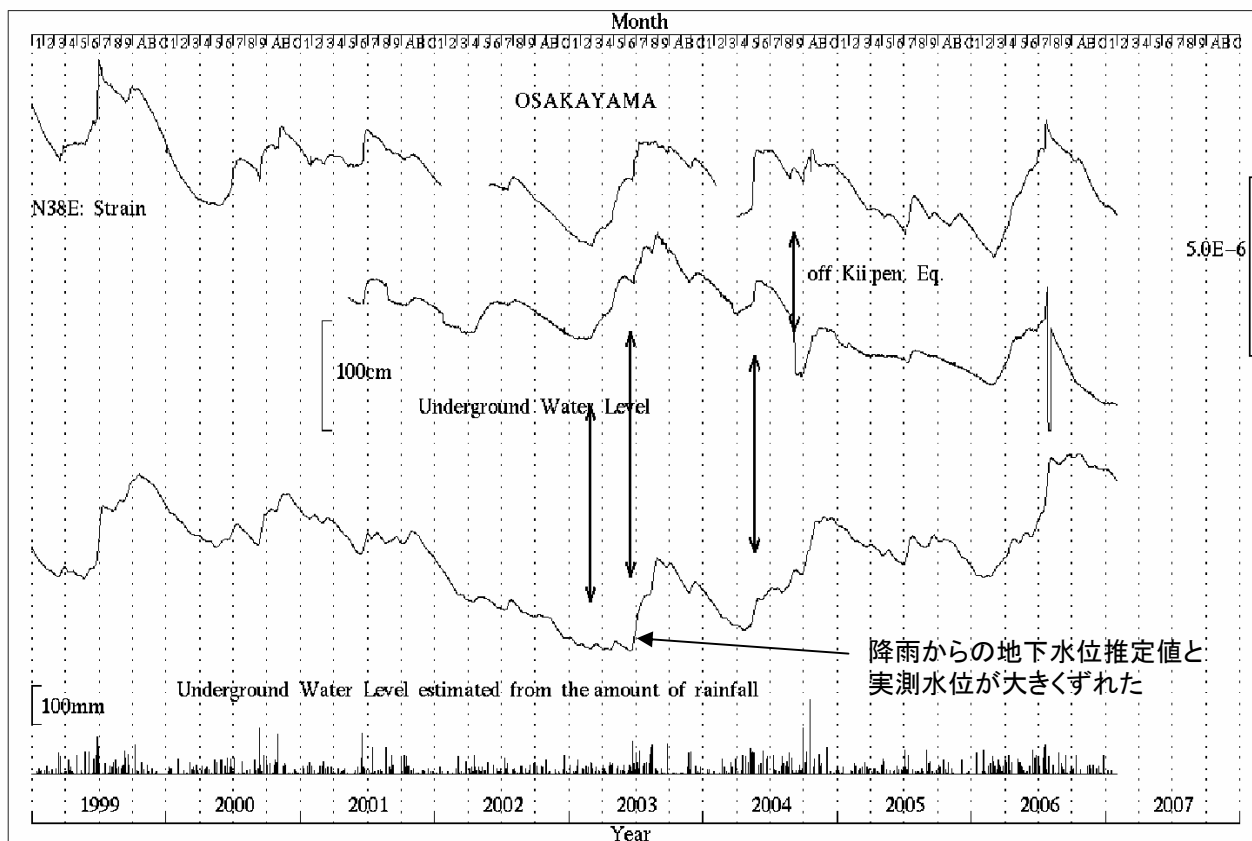
図2 図1と同じ空間範囲における静穏化後のの積算地震発生数（黒線）。2004年1月1日～2007年2月13日。30km以浅。京都大学防災研究所地震予知研究センターによる。赤い線は、declusterしたカタログによる積算数。2003年初頭の静穏化開始以来、ほぼ一定のレートで低い活動が維持され現在に至っている。領域内で何回か有感クラスの地震も発生したが、全体的な活動に変化は見られない。2006年6月以降は、さらに活動が低下したが、11月3日亀岡付近のM3.7の地震後元のレートに復帰しているようである。

# 近畿北部の地殻活動 ～地殻変動連続観測のトレンド変化～

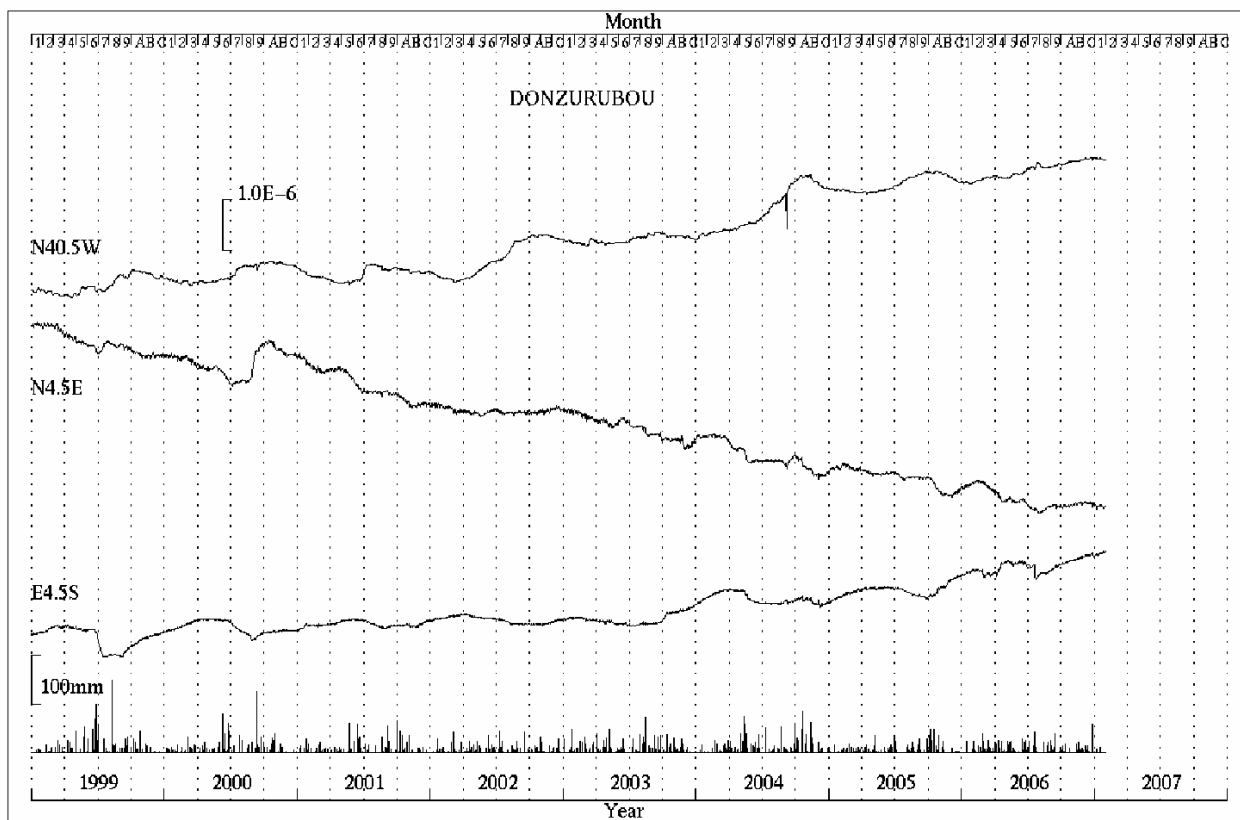
京都大学防災研究所地震予知研究センター



第1図 天ヶ瀬観測室における歪変化と日雨量（1999年1月～2007年1月）

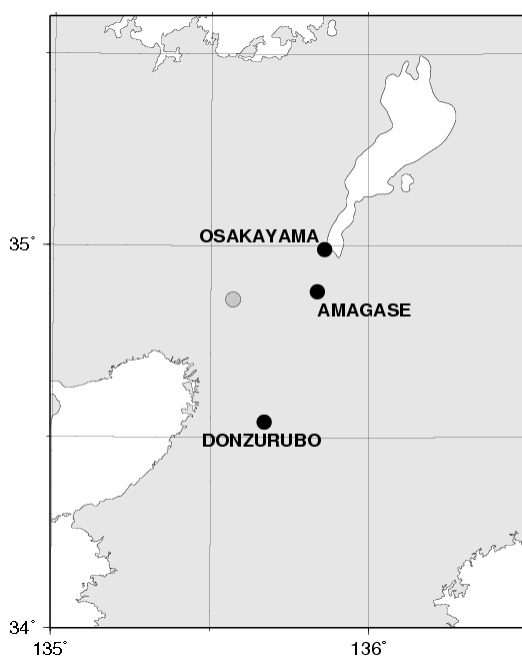


第2図 逢坂山観測所における歪変化、地下水位と日雨量（1999年1月～2007年1月）



第3図 屯鶴峯観測所における歪変化と日雨量（1999年1月～2007年1月）

近畿地方横坑連続観測点3点の1999年1月～2007年1月の伸縮計記録を示す。2003年初頭以来のトレンド変化が継続している。（森井 互・尾上謙介）



第4図 観測所位置図